

令和2年度 病害虫発生予察情報

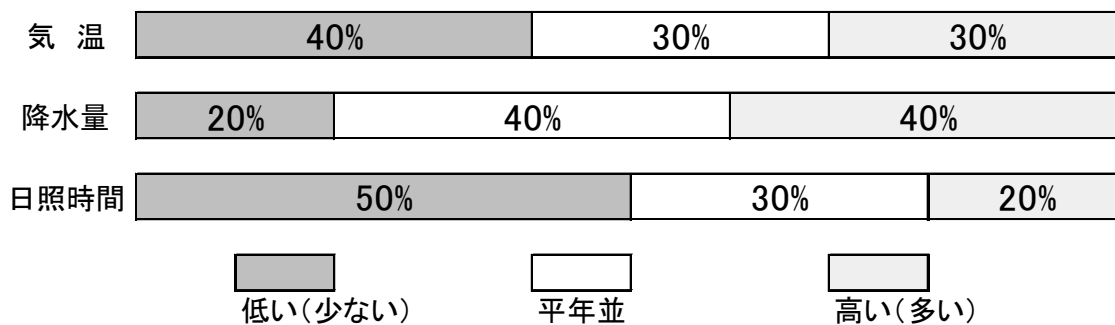
発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和2年7月17日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並～やや多い		
		紋枯病	やや少ない～平年並		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	やや多い		
		ヒメトビウンカ	やや多い		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	多い		
		トビイロウンカ	多い		
		コブノメイガ	多い		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや多い
				黒星病	平年並～やや多い
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	やや多い				
カキ	うどんこ病			平年並	
	チャノキアザミウマ			平年並	
果樹全般	カメムシ類			多い	

中国地方1か月予報(7月18日～8月17日・広島地方气象台7月16日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査(70ほ場)では、発生を認めていない(平年の発生ほ場率は9.9%、発病株率は3.1%)。
- ② 県内の一部ほ場で発生が確認されている。
- ③ 7月10～15日を中心に感染好適日が出現している。
- ④ 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は8.6%（平年11.3%）、発病株率が0.3%（平年1.4%）と平年に比べてやや少ない。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(5) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①媒介虫であるヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ②4月中旬の越冬世代幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（過去10年の平均1.3%）と低い。
- ③県内の一部で多発生ほ場がある。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は58.5%（平年45.4%）、捕獲数は14.2頭（平年6.8頭/50株）と発生量は平年に比べてやや多い。
- ②予察灯（出雲市）における誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年6.62%）、被害株率は0%（平年0.24%）と発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②予察灯（出雲市）、フェロモントラップ（出雲市）における誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は58.7%（平年55.3%）、捕獲数は9.4頭（平年8.6頭/50株）と発生量は平年並みである。
- ②予察灯（出雲市）での誘殺数は4頭（平年45.2頭）で平年と比べて少ない。

③向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

(9) セジロウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は100%（平成61.9%）、捕獲数は344.8頭（平成68.5頭/50株）と発生量は平年に比べて多い。
- ② 7月第3半旬までの予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）での誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は32.6%（平成2.4%）、捕獲数は7.0頭（平成0.32頭/50株）と発生量は平年に比べて多く、過去10年で最も多い。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。
注）令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第3号 参照。

(11) コブノメイガ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は37.0%（平成6.18%）、被害株率は15.9%（平成0.15%）と発生量は平年と比べて多い。
- ② 予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。
注）令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第4号 参照。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月14～16日に収穫している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は81.8%（平成80.7%）、平均捕獲虫数は5.77頭/20回振り（平成7.59頭）と平年並みであるが、クモヘリカメムシなど大型カメムシの発生ほ場率および捕獲数が多い。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類合計で発生ほ場率は70.5%（平成63.4%）で平年並みだが、捕獲頭数は12.4頭/20回振り（平成8.5頭）と発生量は平年と比べてやや多い。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
注）令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第2号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率9.9%（平成6.4%）であり、発生量は平年と比べてやや多い。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率1.0%（平年1.0%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

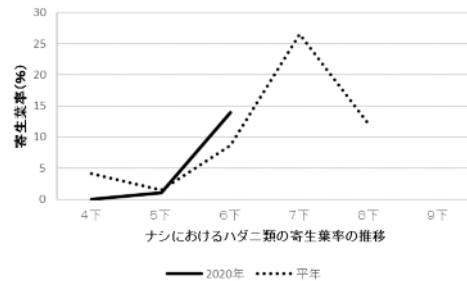
(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の発生量は寄生葉率14.0%（平年8.7%）、寄生虫数28.6頭/50葉（平年19.2頭）と平年並みである（グラフ参照）。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



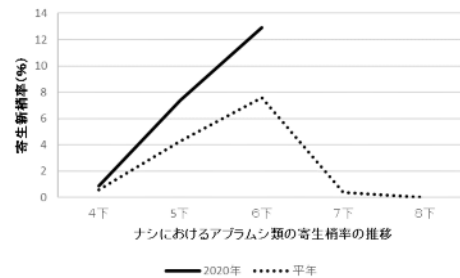
(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の寄生新梢率12.9%（平年7.6%）、寄生度3.8（平年3.1）と平年に比べてやや多い（グラフ参照）。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生を認めていない（平年の発病葉率は0.43%）。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）

発生量

多い

予報の根拠

① 7月第2半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は983頭（平年289.8頭）と平年に比べて多い。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号 参照。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>